

# 三里塚こそ反戦平和の砦

## 日刊 勤労千葉

81.9.19 No.849

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五(六)公衆電話三二二七二〇七

### 10・11三里塚総決起を、労農連帯で二期決戦勝利へ!

いま、三里塚二期工事をめぐる情勢は緊迫している。七月三十一日塩川運輸相一沼田千葉県知事会談、八月二五日、臨時閣議での「成田空港関連は行革対象から除外」決定をもって、政府・空港公団は公然たる二期着工攻撃にふみだした。いよいよ三里塚二期の攻防戦は決戦の段階へと突入したのだ。われわれは、労農連帯を掲げ、組織の存亡をかけて八一・三ジェット決戦五日間ストライキを闘い抜いた労働組合として、三里塚二期決戦へ巨万の労働者の隊列を結集させる主軸として奮闘しなければならぬ。

#### 現情勢下での三里塚のはたす役割

われわれは、三里塚二期工事を掲げ決起するにあたって、いま一度、三里塚闘争とはいかなる闘いであるのかを確認しよう。

三里塚闘争は、動労「本部」反動分子がいうように「農民のエゴ」などという闘争ではないことは、三里塚芝山農民の十六年間におよび不撓不屈実力闘争によって闘いぬかれ、いまなお政府・公団の二期工事を阻みつづけていることで明らかである。

三里塚芝山農民は、一九六六年、「三里塚に新東京国際空港を建設」という一方的閣議決定をもってする空港建設攻撃に対して、反対同盟を結成し闘いを開始して以来、六七年、外郭測量阻止闘争、七一年、第一、第二次代執行阻止闘争、七七年、鉄塔決戦、七八年、開港阻止闘争と実力闘争をもって闘い開港政策に大打撃を与えてきた。そして七八年一八一年とジェット燃料貨車輸送延長阻止闘争を労農連帯をもって闘うことによつて、いまや三里塚闘争は、労農連帯を中軸とする全国の闘う労働者人民を総結集した一大闘争陣形を形成するにいたっている。

十六年間にわたつて敷地内に居を構え、幾多の弾圧をのりこえ闘ってきた石橋政次反対同盟副委員長長の決意こそ、軍事大国化へむけた反動攻撃が激化する情勢下で、三里塚闘争のはたす役割を明確に示している。

#### 計 報

新小岩支部組合員加藤一郎氏(運転管理係56才)は九月十四日朝、ポイント清掃作業中に構内入換中の機関車に接触、重傷を負い直ちに日本医大病院に収容され治療を受けましたが、十六日午前九時不帰の人となられました。謹んで哀悼の意を表します。尚、十八日行なわれた葬儀には多くの仲間がかけつけ別れを惜しみ、関川委員長は組織を代表して弔辞を捧げました。

「三里塚空港の問題は家屋敷や農地を守るためばかりではなく、軍事空港反対の闘いだ。二期工事をめぐる闘いは、今後の日本と人民の存亡をかけた闘いだ。単に自分の小さな気持で命を守るとか、自分の権利を死守するというのではなく、一億一千万の国民の期待を裏切つてはならないこと。軍拡と戦争への道を阻止するためにも、空港の建設を許してはならない。二期工事は実力で粉碎しなければならぬ」……と。

われわれは、この石橋副委員長が腹の底から発する決意を自らのものとして、労働者こそ、軍拡と戦争の道を阻止する三里塚二期決戦へ決起しなければならぬことを再度確認しなければならぬ。

#### 三里塚は全労働者の課題

軍事大国化をもって再び侵略と侵略戦争へ人民を動員せんとする道を歩みはじめた政府・支配者階級の攻撃の焦点は三里塚二期工事にあり、政府・支配者階級にとつて三里塚は、航空宇宙産業の強化のための焦眉の課題であり、しかも戦争のためには「有事の際に軍事に転用」できる軍事空港建設として絶対に不可欠なものとしてあるのだ。

さらに、三里塚は社・共をはじめ既成労働運動が屈服するなかにあつて、それをのりこえ、そして、ことごとく敵対・妨害をはたらく権力・公団の尖兵Ⅱ革マルを粉碎一掃して十六年間、不屈に闘い抜く全人民の闘う砦として存在している。この三里塚を闘う人民の陣形を叩きつぶさずして日本を支配する軍事大国化Ⅱ侵略戦争への道をひらくことができないうことに規定され、しゃにむに二期攻撃を激化してきているのである。それゆえに三里塚二期決戦は、軍事大国化を阻止し、反戦・反基地闘争の頂点をなす闘いであり全労働者が取組むべき今日の最大の課題である。

10・9、10の第六回定期大会の成功をかちとり、一三〇〇の総力をかけて、10・11三里塚へ空前の大結集をかちとろう!